



J R 連 合 N E W S

JRに集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を!!

2022 年度

No. 56

2022年12月2日

日本鉄道労働組合連合会

JR連合「安全対策委員会」がJR貨物「東京貨物ターミナル駅」を視察!

11月29日、「JR連合 安全対策委員会」の委員16名は、JR貨物「東京貨物ターミナル駅」の視察を実施した。JR連合・貨物鉄産労・南関東ロジスティクス労組は、かねてより関係各方面に対し、鉄道貨物の大動脈輸送の強化や、総合物流施設「東京レールゲートEAST・WEST」をはじめ、鉄道貨物のさらなる活用・モーダルシフトを推進するべく、政策活動を展開してきた。一方、ターミナル駅においてコンテナの積み下ろし作業に従事しているロジスティクス労組の仲間との情報・意見交換を通じて、その労働環境や業務量、労働時間管理のあり方等についても課題認識を持ってきた。

今視察は、南関東ロジスティクス労組と貨物鉄産労および各関係会社の協力・調整のもと、「安全の確立」の取り組みの一環として、東京貨物ターミナル駅の位置づけ・機能や南関東ロジ労組の仲間の業務内容・労働環境、およびこれらにまつわる各種課題を確認し、課題の解決に向けた諸活動に反映していくことを目的としたものであり、現地現物を確認する極めて有意義な機会となった。



東京貨物ターミナル駅は、総面積(75万㎡=東京ドーム16個分)、荷扱い量ともに日本最大の鉄道貨物駅であり、東京都品川区八潮に位置し、国道357号線・環状7号・首都高速といった道路アクセスが良好であるとともに、東京港、羽田空港にも近接する極めて重要な物流の結節点である。

貨物鉄産労・南関東ロジ労組の課題認識をもとに「現地・現物・現実」を確認!

視察にあたっては、まず駅舎の屋上より駅全体を俯瞰し、駅構内の施設や設備の位置関係のほか、列車の出入りやフォークリフト・トップリフト、トラックによる荷動きの概況等を把握したうえで、駅構内を自動車で移動しつつ、荷役線(コンテナホーム)の施設・設備や作業状況・環境を視察し、その後会社との間で意見交換を実施した。

意見交換では、コンテナ積み下ろしや積付検査における熱中症対策や輸送障害時の対応、偏積対策、土場の補修状況といった安全対策のほか、モーダルシフト推進に向けた政策、効率化施策および作業員の労働時間・安全衛生管理等について質疑応答を交わし、課題認識を共有するとともに、経緯や理由、会社の取り組み内容を確認することができた。JR連合はこの度の視察内容と結果を踏まえ、政策課題を整理するとともに、引き続き建設的な政策活動を展開していく。